



プロスポーツ

PROSPORTS KEIRIN WEEKLY MAGAZINE

日本選手権GI

号外版

G1では存在感大きい古性優作

G1の中でも最も権威のある日本選手権競輪。第79回大会は、4月29日～5月4日の日程で開催される。舞台は第69回大会以来となる名古屋競輪場だ。昨年の覇者である平原康多らSS班9名をはじめとして、寺崎浩平、太田海也、中野慎詞、山崎賢人ら全国各地からスピードスターが集結して覇を競う。6日間に渡るサバイバル戦で主役を演じるのは果たして誰なのか？

4月高知記念での動きはらしさを欠いていた古性優作だが、調整能力の高さには定評があるので、評価を下げる必要はあるまい。G1にはきっちり仕上げての参戦が多く、22年2V、23年3V、24年2Vと、ここ3年間で圧巻の7Vを達成している。日本選手権はまだ手にしていないだけに、是非でも欲しいタイトルのはず。ウィナーズカップのVはあったが、年頭から結果を恐れずここに向けて試行錯誤してきた。躍動感にあふれる競走



古性優作



脇本雄太

で初Vをものにするか。盟友の脇本雄太は19年、22年とこの大会で優勝して相性がいい。ベストでの参戦が望みにくいため、成績にはバラつきがあるものの、全日本選抜では優勝と底力を示した。ウィナーズカップは決勝を外したものの、最終日は最終バック先制のまくりを決めた太田海也を更にまくりで飲み込んだ。直前の4月川崎記念では上がりタイム10秒5のバンクレコードも叩き出した

輪界トップの脚力を披露しての3V目ゲットは十分。全日本選抜で準Vの寺崎浩平もタイトルに手が届くところまで総合力を高めている。ウィナーズカップの決勝は8着だったが、先制した新山響平、浅井康太の3番手を確保すると、郡司浩平の反撃を弾いてからまくり出ている、レース運びに進境を見ている。古性、脇本の引き立て役にはとどまらない。

南関勢も戦力は充実している。郡司、岩本俊介のSS班2名に深谷知広、松井宏佑、和田真久留、松谷秀幸。エースの郡司は勝ち星を量産している。今年はここまでG3の3Vを含み20勝、勝率は62・5%と素晴らしい数字だ。自力で強さを発揮している勝機が巡ればものにできる状態にある。愛知は古巣の深谷はいつも以上に気合が入るはず。全日本選抜（豊橋）は決勝3着、3月の当所記念では①②③着と結果を出している。

昨年のチャンピオン平原康多は、3月玉野記念の初日特選で今年の初

勝利をあげたものの、二次予選で落車。川崎記念で復帰したが本調子には程遠い。対照的に眞杉匠は順調にきている。全日本選抜は準決1着で優勝すると、ウィナーズカップは古性の好ブロックに阻まれるもまくって準V。位置取りも視野に入れた自力攻撃でVを睨む。吉田拓矢も玉野記念でVなど動きがいい。

中四国勢は動ける選手がそろっている。清水裕友は4月高知記念では、犬伏湧也の逃げを差してSS班ワンツーを決めたばかり。太田は武雄記念の決勝で落車したのが気になるが、影響がないようならワールドクラスのスピードを発揮して別線を圧倒しよう。F1を連覇中の松浦悠士もラインのレースでも自分でやっても結果を出せる状態だ。

ウィナーズカップでは力強い走りを披露した新山だが、武雄記念は途中欠場。体調に問題なければ、快速誇る中野慎詞とともに目が離せない。北の追い込み陣では成田和也が乗れている。佐藤慎太郎は大怪我から復帰したばかりでまだ厳しい。

九州勢は山田庸平、山崎賢人らに期待がかかる。山田はウィナーズカップ①①⑦①着。決勝は外すも最終日は上がり8秒9のバンクレコードを叩き出すと、武雄記念では4連勝で地元記念初Vを達成。調子は申し分ない。また、山田、山崎ら次第では荒井崇博にも出番。



郡司浩平

主力選手プロフィール									※ 直近12場所成績 2025年04月23日時点
写真	氏名	登録地	期別	氏名	登録地	期別	氏名	登録地	
	犬伏 湧也	埼玉	87期	清水 裕友	千葉	94期	古性 優作	大阪	
29	119期SS		105期SS	30	118.21SS	34	115.75SS	36	118.28SS
114.79	113.92	114.79	110.89	114.66	120.94	118.00	118.60	111.67	114.00
114.79	110.89	118.21	115.75	118.28	115.79	111.00	118.05	116.06	113.64
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	
● 90 ● 95 ● 37 ● 10 ● 10 ● 102	● 61 ● 75 ● 73 ● 24 ● 47 ● 92	● 76 ● 95 ● 95 ● 14 ● 81 ● 111	● 79 ● 107 ● 44 ● 0 ● 81 ● 121	● 79 ● 96 ● 67 ● 22 ● 69 ● 102	● 64 ● 77 ● 49 ● 20 ● 46 ● 88	● 53 ● 64 ● 74 ● 78 ● 128 ● 79	● 89 ● 100 ● 42 ● 18 ● 26 ● 110	● 89 ● 87 ● 39 ● 0 ● 35 ● 87	
出走45	出走39	出走44	出走46	出走45	出走41	出走28	出走43	出走43	
18 9 6 12	9 7 3 20	21 12 6 5	22 4 3 17	25 8 3 9	7 8 8 18	3 3 7 15	18 5 5 15	13 7 3 20	
12月 出走 11月 出走 10月 出走 9月 出走 8月 出走 7月 出走 6月 出走 5月 出走 4月 出走 3月 出走 2月 出走 1月 出走	12月 出走 11月 出走 10月 出走 9月 出走 8月 出走 7月 出走 6月 出走 5月 出走 4月 出走 3月 出走 2月 出走 1月 出走	12月 出走 11月 出走 10月 出走 9月 出走 8月 出走 7月 出走 6月 出走 5月 出走 4月 出走 3月 出走 2月 出走 1月 出走	12月 出走 11月 出走 10月 出走 9月 出走 8月 出走 7月 出走 6月 出走 5月 出走 4月 出走 3月 出走 2月 出走 1月 出走	12月 出走 11月 出走 10月 出走 9月 出走 8月 出走 7月 出走 6月 出走 5月 出走 4月 出走 3月 出走 2月 出走 1月 出走	12月 出走 11月 出走 10月 出走 9月 出走 8月 出走 7月 出走 6月 出走 5月 出走 4月 出走 3月 出走 2月 出走 1月 出走	12月 出走 11月 出走 10月 出走 9月 出走 8月 出走 7月 出走 6月 出走 5月 出走 4月 出走 3月 出走 2月 出走 1月 出走	12月 出走 11月 出走 10月 出走 9月 出走 8月 出走 7月 出走 6月 出走 5月 出走 4月 出走 3月 出走 2月 出走 1月 出走	12月 出走 11月 出走 10月 出走 9月 出走 8月 出走 7月 出走 6月 出走 5月 出走 4月 出走 3月 出走 2月 出走 1月 出走	
2072万	1208万	5244万	5305万	3913万	1675万	728万	2986万	2008万	
逃捲	自在	自在	捲逃	捲逃	捲逃	逃捲	逃捲	逃捲	
競走 競走 競走 競走 競走 競走 競走 競走 競走									

プロスポーツ

第79回 日本選手権競輪

号外版

イチ押し! 記者の



小山 記者



取島雄吾



山田庸平

山田庸平が絶好調だ。伊東のウィナーズカップでは準決勝で敗退したが、シリーズで3勝を挙げ、最終日にはバンクレコードを更新した。続く4月の武雄記念では完全優勝で地元記念を初制覇。この勢いのままに乗りこんでくる。「一日、一日、自転車と向き合っただけでG1を戦えればと思います」と、もちろん次に目指すはG1のタイトルホルダーだ。昨年は1回もG1決勝に乗ることはできなかったが、一昨年はビッグで3回決勝に進出している。まずは決勝の舞台に立つべく挑む。

取島雄吾は4月高知記念から新車を投入。続く青森F1では連日、セッティングを入念に確かめていた。準決勝の後には「セッティングをいじって初日より良かった」と手応えをつかんだ様子で、決勝戦はまくりに戻ったが、後方から前団をのみ込んで優勝。いい形でG1に臨むことができる。ウィナーズカップでは2勝を挙げるなど、純粹な脚力だけならトップクラスで活躍できる。先行とまくりを使い分けた仕掛けで戦法の幅が増せば、さらに好成績が望めそうだ。



竹内 記者



神山拓弥



柏野智典

来期、5年ぶりの2班陥落が物語っているように、昨年は低迷していた柏野智典。

「夏場に体調とかヒザの問題で、いつもの半分くらいしか練習ができなかった。それが影響しているけど、やっと(昨年12月くらいは)練習が良くて、自分に期待している。けど、なかなか結果が...」

昨年12月の松山G3では、すでに好感触を得ていた。しかしながら、結果がついてこず、もどかしさが募っていたことだろう。流れが向いたとはいえず、4月の久留米では2年以上ぶりの優勝。近況の復調ぶりなら、久々のG1優出まであってもいい。

神山拓弥が、上昇ムードで大一番を迎えられそう。全部がダメでした」と、4月青森では一息だったが、その後に関東の合宿に1日だけ参加して追加で川崎記念に出場。G1に向けた合宿で刺激が入ったのか、「(初日は)外を踏んで1着が取れたし、悪くなかった。これからもっと良くなってくると思う」。同地区の機動タイプの駒もそろって、チャンスは十分にある。



細川 記者



中野慎詞



藤井侑吾

藤井侑吾は静岡記念で蜂窩織炎を発症して、約一カ月欠場を余儀なくされたが、「(唯一)一人地元から参戦予定だった」全日本選抜競輪と名古屋記念に出られなかった分まで「ダービーは頑張りたい」と気持ちが入っている。復帰戦となった伊東のウィナーズカップではシリーズ2勝を挙げたものの、「フォームもバラバラで、レース勘もズレていましたし、全然ダメでした」と冷静に自己分析。「ダービーまでにはどうにか戻りたい」と急ピッチで仕上げて、初めての参加となる地元のG1までには間に合わせる。

ナショナルに所属してスピードに磨きをかけている中野慎詞は、G1で結果を出すために明確な課題を掲げる。「自分はいくつ100走に達したばかりですし、トップ選手と比べても組み立ての部分で劣っている。どうやって主導権を取りに行くのか、どうラインを最大限に生かして走るのか。そういうところを磨いていかないと。1レースも無駄にせずもっと戦術を増やしたい」。10秒台のハイラップが頻発するほどスピードバンクと化すこの時期の名古屋バンクで存在感を放つ。



権田 記者



成田和也



山崎芳仁

12年にオールスターを制した山崎芳仁は、日本選手権にグランドスラムの王手。そこから10年以上の時間が流れ、22年に新田祐大、今年の2月に脇本雄太に先を越された。しかしながら、焦りがあるはずもなく、2人を心の底から称える山崎だけに、今シリーズも平常心に変わりはなく。

「もう年齢的に強くなるって言えないので、こういう時が来た時に」

先月の前橋では番手まくりでチャンスをモノにして、約5年ぶりのG3制覇。87期の平原康多が昨年、日本選手権V。今年は山崎に順番が巡ってきてもおかしくはない。

ファンだけでなく他地区にも、成田和也の闘うスタイルを心酔する選手は多い。武雄記念の二次予選では新山響平が、当日欠場のアクシデント。目標を失った成田は、石原颯の番手勝負。小倉竜二とのタイトルホルダー同士の競りは成田に軍配が上がり、負けた小倉もあっぱれのテクニクだった。続く熊本F1は新田のインまくりに付け切り交わしてVと、46歳にして差し脚も健在。みんなが酔いしれる立ち回りが、大舞台でも見られそう。